

HPV ワクチン
(子宮頸がんワクチン)
副反応被害報告集

— 大阪支部版 —

平成 26 年 10 月

薬害対策弁護士連絡会

本書について

本書は、全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会が実施している子宮頸がんワクチン被害実態調査から、聴取した被害内容を収録したものです。

調査は、薬害対策弁護士連絡会及び薬害オンブズパースン会議の協力のもと、両団体に所属する弁護士による聴き取り調査の方法で行われ、現在も継続して行われています。

2014年3月の調査開始から現在までに聴取を行った被害者本人及び保護者のうち、聴取内容を陳述書形式で公表することについてご承諾を得られた方の聴取結果を本書に収録しています。

本書の内容は、すべて2014年10月時点の情報に基づいて作成されています。

目 次

1	0-1 番	被害聴取要約版 陳述書（本人）	4 頁 5 頁
2	0-2 番	被害聴取要約版 陳述書（母）	9 頁 10 頁
3	0-4 番	被害聴取要約版	17 頁
4	0-5 番	被害聴取要約版 陳述書（本人）	18 頁 19 頁
5	0-6 番	被害聴取要約版	21 頁
6	0-10 番	被害聴取要約版	22 頁
7	0-11 番	被害聴取要約版 陳述書（本人）	23 頁 24 頁

日時場所 平成26年6月28日聴取 於:法律事務所
担当者 山西美明、小山優子、田積祥子
対象者 〇ー1番 (本人、母)

1 被害者

平成7年生。接種時高校1年生(16歳3ヶ月)。現在19才。

2 ワクチン接種前の健康状態等

健康(中3時、高1の1学期の欠席日数0日)。幼稚園の頃から10年以上ピアノ継続。

3 ワクチンの接種状況

サーバリックス 3回(H23.8.16、H23.10.15、H24.2.25)

4 経過概要

平成23年4月 自治体より子宮頸がんワクチンの案内文書及び問診票が自宅に届く。
8月16日 かかりつけ医のA医院にて1回目の接種
同月頃 これまでにない生理痛、1回あたりの出血量にばらつきが生じる。
10月15日 2回目の接種。
10月23日 右足首の腫れ。
10月26日 右膝→左膝→右肩→左肩と関節の痛みが次々と生じる。
10月31日 右手の痛みでペンも握れず、両膝の痛みで歩行困難となる。
B医院を受診。レントゲン等でも原因不明。痛み止めと湿布をもらう。
11月8日 前夜に右手に違和感、右手の痛みで起床。手首、指、膝の腫れ。
関節リウマチを示唆され血液検査を行う。
11月9日 膝を曲げるとコリコリする。右顎が痛む。
11月12日 両膝、右顎、右手首、両肩に痛み。血液検査の結果、関節リウマチと診断。
11月15日 右手の腫れは治まるが、膝の痛みは酷く腫れも生じる。
11月17日 B医院にて注射器で右膝の水を抜く(黄色く濁った水)。通学が困難。
11月24日 C総合病院のリウマチ科を受診。
11月28日 検査入院。関節型若年性特発性関節炎(若年性関節リウマチ)と診断。
~12月6日 小児慢性特定疾患の申請
12月頃~ 月に一度通院。抗リウマチ薬による治療を行うが病状は改善せず。
平成24年2月 食事とトイレ以外はほぼ寝たきり状態。
2月25日 3回目の接種
3月7日~ 生物学的製剤(アクテムラ)投与のため入院
4月以降 少しずつ通学可能となる。

5 症状

第2回接種8日後から両足首、両膝、両手首、両肩、顎、指の痛み及び腫れ。
痛みから歩行困難、食事困難、ほぼ寝たきり状態となる。

6 診断名

関節型若年性特発性関節炎(若年性関節リウマチ)

7 現在の状況

月に一度の生物学的製剤(アクテムラ)の投与、検査、診断により症状が改善し、平成26年4月からは、看護学校に進学。しかし、免疫力低下(副作用)により常時マスクを着用し、肝機能数値も上昇している。

8 申請

申請していない。

〇-1 番 本人

1 はじめに

私は、1995年生まれの19歳です。子宮頸がんワクチンを接種してから、特に全身を耐えがたい痛みが襲うようになり、関節型若年性特発性関節炎（若年性関節リウマチ）と診断されました。現在は月1回の生物学的製剤投与等の治療により（このことによる副作用については後述します。）、なんとか症状は落ち着きをみせ、この春から看護学校に通うことができます。しかし、それまで健康であった私の身体は一変し、苦しく辛い思いをしています。また、将来のことを考えると不安でたまらなくなります。以下、私の身体に起きた事についてお話ししたいと思います。

2 子宮頸がんワクチンを接種する前

私はワクチンを接種する前までは健康面で特に問題はなく、中学3年生の時には皆勤賞をもらうほどでした。ピアノは幼稚園の頃から10年以上続けており、高校に入学した時には、音大の進学を目指していました。

3 子宮頸がんワクチン接種に至る経緯

2011年4月、私が高校1年生の時に、自治体から子宮頸がんワクチンの案内文書と問診票が自宅に届きました。8月には広報紙にてワクチンの準備が整った旨の案内があり、3回接種するには半年程度必要である事、助成は翌年の3月末までであり、その後の助成は未定であるため、接種希望者は早期に接種するようとの内容が書かれていました。

学校の友達も受けると言っていたことや、「これさえ打てば子宮頸がんにはならない」、「無料接種で1つのガンになる可能性をなくせるのはすごいことだ」と思い、私も受ける事にしました。むしろ当時は「打たないとダメだ」くらいに思っていました。

インフルエンザワクチンと同じようなワクチンと認識しており、副作用があることや、ワクチンの効果が限られていることなどは全く知りませんでした。

4 ワクチンの接種と症状経過

(1) 2011年8月16日、子どもの頃からのかかりつけ医のA医院で、サーバリックスの1回目の接種を受けました。接種前に、医師からワクチンについての説明文書は交付されませんでしたし、口頭での説明もありませんでした。医師からは「筋肉注射だから痛い」ということだけ聞きました。

1回目の注射は非常に痛かったのですが、打たなければいけないと思っていたので、我慢しました。接種後1週間以上、患部が熱を持ち、腫れや、ジンジンする痛みが続きました。また、生理の時に頭痛、腹痛、腰痛、むかつきといった症状が重くなり、

それまで生理時に痛み止めを飲んだ事はなかったのですが、飲まなければ我慢が出来ないほど酷くなりました。おりものの量も増えました。

- (2) 10月15日の2回目の注射も、1回目と同様の痛みがありました。接種直後には特段1回目と異なるような異常はありませんでした。

しかし、2回目の接種から8日後、突然足首が腫れて痛み出しました。そしてその後、両膝、両肩、両手首と、次々と関節が痛み出したのです。

接種から17日後の10月31日には、右手の痛みでペンも握れなくなり、両膝の痛みから歩行が困難となりました。近所のB整形外科を受診し、レントゲン撮影もしましたが原因は分からず、痛み止めと湿布をもらって帰宅しました。

1週間が経過しても痛みは引かず、足をひきずってようやく歩けるという状態でした。

- (3) 11月8日の朝4時頃、これまで以上の右手の痛みで目が覚めました。午後には右の手首や指が通常の倍近く腫れて太くなりました。再度B整形外科を受診したところ、初めて医師から関節リウマチの可能性を指摘されました。血液検査の結果から、関節リウマチと診断されました。

湿布や痛み止めをもらいましたが、これらは全く効果がありませんでした。

膝の痛みがあまりに強く、腫れも酷いため、注射器で膝の水を抜いてもらったところ、黄色く濁った液体が出ました。

薬が全く効かず、耐え難い痛みと、自分の身体がどんどん変わっていくことに非常に恐怖を覚えました。

- (4) 11月24日、C総合病院のリウマチ科に転院しました。そして、同月28日から12月6日まで、入院し、若年性特発性関節炎(若年性リウマチ)と診断されました。服薬治療を受け、月に一度通院するようになりましたが、病状は一向に良くなりませんでした。

家では食事とトイレ以外はほぼ寝たきりの状態となり、もちろん通学することもできませんでした。痛みで腕が曲がらず、一人で洋服を着替えることもできません。ボタンをかけることもできません。手首の痛みでお箸が使いません。食事は、フォークを使って何とかできる状態です。そのフォークですら、金属の物は重くて使えないため、プラスチック製のものを使用しました。ガラスコップも同様に持つことができず、プラスチックのコップを使用しました。顎が痛み、口が開かず、食べ物を口に入れるのも大変でしたし、食べる意欲もなくなりました。体重が5kgも減りました。

両手首が痛み、お風呂で身体を洗うことも、髪を洗うこともできません。

全身が痛み、ベッドから起きあがれないときは、母が身体を支えて起こし、トイレまで抱きかかえられるようにして行きました。寝返りもままなりません。

- (5) このような苦しい症状が続き、服薬治療では効果がでないため、主治医と相談し、春休みに入院をして生物学的製剤を試すことにしました。

主治医からは、生物学的製剤の投与を開始するとワクチン等の接種ができなくなるため、ワクチンを受けるのならば生物学的製剤の投与開始前にと言われました。当時は、ワクチンによってこのような状態になったとは思ってもよらなかったもので、平成 24 年 2 月 25 日、3 回目の注射を受けました。

そして、3 月 7 日から 9 日まで C 総合病院に入院し、生物学的製剤の投与、治療を受けました。現在まで、毎月一度通院し、血液検査や尿検査、診察、生物学的製剤の点滴を行っています。

(6) 幸い、最初に試した生物学的製剤が私の身体にあい、寝たきりの状態からは解放されました。それでも体調の悪い日は多く、毎日常に、膝や足首、手首、肩、首、顎など、どこかが痛みました。

母の送迎もあり、高校の 2 年次の 4 月から通学も徐々に可能になりましたが、高校 3 年の 2 学期までは体調の悪い日も多く、欠席することも多々ありました。

寒い日はリウマチ特有の「朝のこわばり」の症状があり、朝 6 時に起床してもベッドから起きあがるのに時間がかかりました。手足の関節を温めないと動かすことができません。腕が首の後ろまで回らないため、制服の襟を出すことができません。身体が疲れやすく、疲れると症状が悪化し関節の痛みが酷くなりました。また、手首が痛むときはペンが握れないためノートが取れません。試験を受けられないこともあり、勉強に支障が出ました。遠足や体育大会などの学校行事に参加できないこともありました。

そんな中、高校の先生や友人は、私の症状に非常に理解を示して下さいました。教室移動が少ないように調整して下さいたり、洋式トイレを使用できるようにして下さいたり、廊下到手摺りやスロープを設置して下さいたり、保健室でのテストの実施、レポート提出での単位認定等、様々な配慮をして下さいました。そのおかげで、平成 26 年 3 月、なんとか無事、卒業することが出来たと思っています。

5 現在の症状

現在、毎月一度通院し、血液検査や尿検査、診察、生物学的製剤の点滴を行っています。生物学的製剤による治療の効果が少しずつ出始め、症状は落ち着くようになりました。それでも、身体のいずれかの関節が痛み、また、非常に疲れやすい状態です。

生物学的製剤の投与により、自己免疫が押さえられているため、感染症に非常にかかりやすくなりました。また、一度かかると肺炎など重症化しやすく、実際に肺炎になったこともあります。そのため、外出する際はマスクをしなければならず、とても息苦しい思いをしています。肝臓の数値が悪くなったり、抜け毛が多くなったりもしています。

そして、何より将来のことを考えると不安で一杯です。

現在、症状は落ち着いていますが、関節リウマチは完治することのない病気であり、生物学的製剤が一生治療に効果があるものでもありません。薬が効かなくなると別の新

しい生物学的製剤に切り替えねばならず、そのためには必ず入院治療が必要となります。場合によっては、全ての生物学的製剤が私に効かなくなることもあるかもしれません。また、使用している薬は奇形を発するため、薬の投与を継続している限り妊娠・出産は望めません。治療費は毎月一度の通院につき、検査と点滴で最低 10 万円が必要です。

私は、身体中の関節の痛みには耐えながら、感染症の恐怖に怯えながら、マスク姿への周囲の視線や不自由さに耐えながら、一生過ごさねばなりません。そのうえ、経済的負担も多大です。現在は、小児慢性特定疾患が認められているため、一部の負担ですんでいます。しかし、来年 20 歳になればこれが認められず、健康保険での 3 割負担の支払となります。精神的、肉体的苦痛以外に、経済的苦痛まで生じることになります。

6 最後に

大好きなピアノを弾き、音大への進学を夢見て高校に入学しました。それがワクチンを接種したことにより、2 学期には、私の身体も生活も夢も一変してしまいました。

平成 25 年 4 月 9 日の朝日新聞の記事を読み、ワクチン接種と発病の時期が近いことに気付きました。子宮頸がんワクチンが原因でこのような身体になってしまったと思っています。

私は自分がリウマチという病気になったことで、将来看護師になり、同じように病気で苦しむ方々のお役に立ちたいという思いから、看護学校へ進学しました。しかし、毎日の通学は思ったよりも大変で、帰宅すると疲れて横になってしまうこともあります。また、授業や実習では体力を使うことも多く、無事に卒業できるのか不安です。

天気の悪い日や寒い時期は関節の痛みが強く、未だに膝や手首も腫れますが、学校を休むわけにはいきません。そのような日は本当に辛く、病気の自分を思うと悲しくなります。このように、毎日ぎりぎりの体力で通学しているような状態です。

もう、私の健康な身体は戻ってきません。

学校では、ワクチンを打った後に生理が重くなったという友達が多くいました。関連性は分かりませんが、別の学年にも、若年性関節リウマチに罹患した方がいます。主治医の先生からは若い女の子でリウマチが最近増えていると聞きました。

私のような被害者をこれ以上出して欲しくありません。私と同じような被害者が他にいないかどうか、ワクチン接種者全員の追跡調査を強く望みます。

そして、一日も早くこの問題を解決し、救済してくださるよう望みます。

以上

日時場所 平成26年7月26日聴取 於:被接種者自宅
担当者 松井俊輔, 甲斐みなみ, 宮本剛, 関谷俊宏
対象者 〇-2番 (母)

1 被害者

平成8年10月生。接種時中学校3年生(14歳), 現在17歳。大阪府在住。

2 ワクチン接種前の健康状態等

健康。学校を休むことはほとんどない。バレーボール部をやめてからは美術部所属。

3 接種

サーバリックス 3回(H23.9.28, H23.10.28, H24.3.31)

4 経過概要

平成23年 9月初め 中学校から子宮頸がんワクチンについての案内受けとる。

平成23年 9月28日 サーバリックス接種1回目。

平成23年10月28日 サーバリックス接種2回目。

平成24年 3月31日 サーバリックス接種3回目。

平成24年 5月 右指の関節痛・腫れ強くなる。リウマチ検査は陰性。

平成24年 夏・秋 右股関節の痛みで足がしびれる。

平成25年 7月 手足のしびれを訴え, 救急外来受診, 脳CT異常なし。

平成25年 夏頃より 学力低下, 記憶力低下。

平成25年12月 3日 阪大病院にて「痛みは気のせいだ」と言われ, 精神的に不安定になる。

平成26年 2月 頃 11日欠席(高2)。倦怠感が強く, 20時間/日の過眠。

平成26年 3月10日~3月14日, 入院(関東の病院)

平成26年 4月30日~5月 1日 入院(関東の病院)

5 現在の状況・症状

平成26年6月頃より, 民間療法により, 症状は軽快している。

6 受診医療機関の数・診療科

5か所(貴島病院本院, 五島整形外科, 若草第一病院, 大阪大学医学部附属病院大
阪大疼痛医療センター, 関東の病院)。

7 所見・診断等

脳MRI, 血流検査により高次脳機能障害。

8 救済制度の申請

申請していない。

〇-2番 母

1 はじめに

私は、東大阪市に住む17歳の娘（平成8年生まれ）の母です。

娘は、平成23年9月から平成24年3月にかけて、子宮頸がん予防ワクチンのサーバリックスの投与を3回受けました。その後、娘は、子宮頸がん予防ワクチンによる副反応の被害を受けていますので、以下、お話しします。

2 ワクチン接種前の状況

娘は、特に大きな病気をしたこともない元気な子で、学校の出席状況は、たまに風邪をひいたときに2日ほど休むことがある程度で、それ以外の理由で休んだことはありませんでした。

小学校の時は、3年生の時から3年間ソフトボールを続けていました。小学校6年生の運動会では、男の子をさしおいて応援団長をさせてもらい、一生懸命練習していました。負けず嫌いで頑張り屋の明るい女の子でした。

中学校に入ってからバレーボール部に所属して頑張っていました。スポーツで酷使しすぎたことと、骨の間のひずみがあったことで、右肩をいためてしまい、ドクターストップがかかってしまいました。

その後は、美術部に所属して、大好きな絵を描いていました。

以上のとおり、スポーツが原因で右肩をいためて整形外科にかかったことはありませんが、日常生活・学校生活には何ら支障はありませんでした。

3 ワクチン接種の経緯

平成23年9月頃、通っていた中学校から、子宮頸がん予防ワクチンの接種を勧める手紙をもらいました。東大阪市保健所が発行した書面だったと思います。

全額公費助成があり無料で受けられて、子宮頸がんを予防できる夢のようなワクチンだと思いました。ただ、公費助成は期間限定のもので、平成23年9月末までに一回目の接種をしないと、助成期間中に3回全部の接種を終えられないということでした。

私は学校から予防接種を受けるようにという勧めがあったこと、今なら無料で予防接種を受けられ子宮頸がんを防げると思ったことから、娘に子宮頸がん予防ワクチンを受けさせることにしました。

4 ワクチン接種時

学校からもらった書類の中に、子宮頸がん予防ワクチンの接種ができる医療機関一覧のようなものがありましたので、その中から自宅近くの家出医院を選び、サーバリックスを三回接種させました。

接種日は、平成 23 年 9 月 28 日、同年 10 月 28 日、平成 24 年 3 月 31 日でした。

ワクチン接種にあたり、医師や看護師、薬剤師から、特段の説明はありませんでした。学校からもらった文書と予診票の記載を読んだのと、ワクチンに関するリーフレットを渡されたくらいです。

接種の際は、私も付き添っており、接種後 30 分ほど椅子に座って様子をみてもらっていましたが、意識を失うようなことはありませんでした。

ワクチン接種時に、特に強い痛みを感じることはなかったようで、筋肉注射なので普通の注射よりはやや痛いという程度でした。

3 回の接種のたびに、注射部位にだるくて痛い感じが残りました。この症状は 2 日から 3 日ほど続きました。

また、1 回目の接種の後から、右手指の関節に痛みが生じていたようですが、娘もまさかワクチンが原因だとも考えていませんでしたし、まだ症状がそれほどひどくなかったこともあって、私に右手指の痛みのことは話してきませんでした。そのため、2 回目、3 回目もワクチンの接種を受けました。

5 ワクチン接種後の症状の経過

(1) 右手指の関節痛・腫れ

3 回目の接種を受けた後の平成 24 年 4 月頃から、右手指の関節痛がひどくなり、同年 5 月からは右手指の関節が赤くなって腫れ、指関節が上と横に盛り上がったような状態になって腫れが引かなくなりました。

以前より痛めた右肩を診てもらっていた貴島病院整形外科で診ていただいたのですが、貴島病院からは、関節が柔らかいからではないかと言われただけでした。

しかし、指の関節が明らかに腫れて盛り上がっているのです。私はおかしいと思い、平成 24 年 5 月 31 日頃、五島整形外科クリニックを受診し、リウマチの検査を受けました。結果は陰性で、インナーマッスルを鍛えるしかないのではないかとされましたので、これまでにかかっていた貴島病院で、インナーマッスルを鍛えるためのリハビリを受けることにしました。

(2) 股関節等の痛みの出現

平成 24 年夏と秋には、娘は、今度は右股関節の痛みを訴えました。右股関節が痛いために、歩行もスムーズにできず、右足をひきずるようにして歩くことができました。

そのため、平成 24 年冬頃、貴島病院整形外科でレントゲンを撮ってもらったのですが、原因ははっきりせず、やはり関節が柔らかいことが原因ではないかということで、インナーマッスルを鍛えるリハビリの回数を増やしました。

他にも、娘は、肩や膝、足首等の痛みを訴えており、痛みの場所はその時によって違いました。

(3) 手足のしびれの出現

平成 25 年 7 月頃、娘が高校から帰ってきた後、学校で手がしびれたと言いました。症状はいったんおさまっていたようですが、その日の夜、娘が、また手がしびれてきて、今度は足先もしびれてきたと言いました。

私は、しびれという症状を聞いて、脳に原因があるのではないかと思い、救急病院などを教えてもらえる電話番号に電話をかけて相談しました。すると、近鉄瓢箪山駅近くにある若草第一病院を紹介してもらえ、ちょうど当直の医師がいらっしゃるということだったので、救急外来を受診しました。

若草第一病院では脳の CT を撮ってもらいましたが、異常はないということで、症状が一週間ほど続くようなら、整形外科で末梢神経の検査を受けてみるようアドバイスを受けました。

その後も娘の手足のしびれは続いてはいたのですが、20～30 分ほどしびれたと思ったら止むという具合で、1～2 週間症状があったと思ったら、またしばらく症状が出なかったりという具合でしたので、結局、整形外科での末梢神経の検査を受けないままとなりました。

(4) その他の症状

そのほか、娘は、ワクチン接種後から、倦怠感、めまい、立ち眩み、ひどい頭痛、ニキビの悪化といった症状を訴えたり、他の生徒は特に不具合を感じていない程度の黒板の光の反射を眩しいと言うようにもなりました。風邪を引いても以前より治りにくく熱も下がりにくくなりました。

娘は、3 回目のワクチン接種直後に高校に進学し、高校 1 年生の時は真ん中くらいの成績でしたが、その後記憶力が低下し、高校 2 年生の夏（平成 25 年夏）頃からは、成績も下がってきました。

(5) ワクチンが原因ではないかと知った経緯

平成 25 年秋頃だったかと思いますが、ニュースで子宮頸がん予防ワクチンによる

副反応の問題を知りましたが、不随意運動と失神が中心の報道でしたので、娘の症状がワクチンの副反応だとすぐには思いませんでした。

しかし、よくよく考えてみれば、身体のおちおちの痛みも、手足のしびれも、眩しがる、立ちくらみその他の症状も、全て子宮頸がん予防ワクチンを受けた後に出始めた症状だったので、だんだん、娘もワクチンの副反応ではないかと考えるようになりました。

そして、平成 25 年 10 月頃、東大阪市の保健所に問い合わせをし、厚生労働省がワクチン後の痛みについて診てもらえる医療機関を紹介しているホームページを教えてくださいました。

ワクチン後の痛みに対応する病院で診てもらうためには、紹介状が必要でしたので、まず、かかりつけでありワクチン後の症状も診てもらっていた貴島病院に紹介状の発行をお願いしました。しかし、ワクチンの副反応ではないかという話をすると協力的でなくなり、ワクチンを打ってもらった病院で書いてもらうようにとされました。

そこで、今度は、ワクチンを打ってもらった家出医院に紹介状を書いてもらうことにしました。家出医院では一応紹介状を書いてくれるには書いてくれましたが、ワクチンの副反応の話をする、そんな人他にはいないのにと嫌みを言われました。

(6) 大阪大学医学部附属病院麻酔科受診

平成 25 年 12 月 3 日、ワクチン後の痛みに対応する医療機関としてホームページで紹介されていた大阪大学医学部附属病院（以下、「阪大病院」といいます。）麻酔科の予約をとることができましたので、阪大病院を受診し、柴田政彦先生に診ていただきました。

子宮頸がん予防ワクチン後の痛みについて対応してもらえる病院だということで、娘の症状の経過などを詳しく聞いて下さるのかと思ったら、先生の対応は全く期待とは異なるものでした。

柴田先生は、私たちの話など聞くこともなく、医者 10 人に 8 人は痛みは気のせいだと言います、患者が安心するから薬を出すだけで効果はない、病院は金儲けのために CT 等の検査をするだけ、一回の検査をするだけで何万円も儲かるんですよ、検査入院をして病理解剖で組織を切り取って、その切った部分の痛みを耐えたり感染症の心配をしますか、とおっしゃったのです。

厚生労働省健康局が、子宮頸がん予防ワクチン接種後の痛みについて診察をする医療機関として、全国 11 カ所定めている医療機関の一つだったのに、このような話をされ、私も娘もとても傷つきました。

特に娘は、阪大病院を受診した後、痛みなどの症状を感じるのは自分がおかしいか

らじゃないのかと思うようになり、精神的にも不安定になってしまいました。

柴田先生からは、一応リウマチの検査を受けてみたらという話もあり、平成25年12月18日にリウマチ検査の予約はしていたのですが、娘は阪大病院にはもう行きたくないと言い、結局受けませんでした。

柴田先生の診察も、平成26年1月28日に予約してはいたのですが、娘は結局受診せず、私だけが病院へ行きました。私は、柴田先生の言葉で娘が傷ついたことを、柴田先生に直接伝えました。柴田先生は、そういうつもりではなかったと謝罪されましたが、ワクチンの副反応なんていうことはあり得ないのだ、ニュースで問題になっている不随意運動などもワクチンの副反応というのはおかしい、心の問題だと主張されました。

何故そのようなことが言い切れるのだろうかとは私は疑問に思いましたが、これ以上柴田先生とやり合っても仕方がないので、次回以降は予約せず、以後阪大病院は受診させていません。

なお、阪大病院を受診した後に、元々のかかりつけの貴島病院に、阪大病院を受診した経過も含めお話したところ、貴島病院の先生からは、阪大でダメなもん、うちで検査はできないと言われてしまいました。

(7) 症状の悪化（平成26年1～2月）

平成26年1～2月頃は、娘の症状が特にひどくなりました。

1月にインフルエンザにかかったことがきっかけになったのかわかりませんが、今までにましてひどい倦怠感、頭痛が続き、一日中寝ているようなこともありました。日によっては1日に20時間も寝ていることがありました。そのため、2月は11日も高校を欠席しなければならなくなり、学校に行けた日でも遅刻が増えました。

生理不順で1ヶ月半生理がなかった後、2月に来た生理では生理痛がものすごくひどく、夜中の3時まで下腹部をさすっていないと痛み止めの薬も効かない状態で眠れませんでした。

記憶力の低下だけでなく、会話の中で言葉が出ないことが増えました。そのため、平成25年（高校2年生）の夏以降成績は下がっていましたが、高校2年生の3学期末の時点では1つ単位が足りず、進級できないような状態になってしまいました。なお、後述のとおり3月に受診した病院に出してもらった診断書を学校に提出し、学校側に配慮をしてもらった結果、ひとまず高校3年生には進級させてもらえ、追認考査を受けさせてもらえることにはなりました。

(8) S病院入院と診断

平成26年1月に、全国子宮頸がん被害者連絡会に相談し、子宮頸がん予防ワクチ

ン後の副反応についてきちんと診てもらえる関東地方の病院（「S 病院」といいます。）を紹介していただきました。

そして、学校の期末試験後の休みを利用して、平成 26 年 3 月 10 日から同月 14 日の間、S 病院に検査入院しました。

S 病院では、脳の MRI 検査、脳の血流検査、髄液検査を受けました。髄液検査を受けた後は、ひどい頭痛があったのですが、学校の追試を受けなければならなかったため 3 月 14 日には退院しなければなりませんでした。

MRI では海馬に軽度の炎症反応があること、脳の血流検査では脳の下の方の血流が悪いことがわかり、ワクチン関連生の脳炎だと言われました。

最終的に、「高次脳機能障害」という診断を受けましたので、その診断書を高校にも提出し、高校 3 年生への進級について配慮してもらえた次第です。

また、平成 26 年 4 月 30 日～同年 5 月 1 日にも、連休を利用して、今度は心理検査のため、S 病院に検査入院しました。

S 病院からは、ステロイド・パルス療法を勧められたのですが、ニュースなどで知る症状の重い方のように不随意運動がある訳ではないですし、さらにステロイドという薬を娘の身体に入れることに躊躇してしまい、結局、ステロイド・パルス療法は受けないことにしました。

それ以来、S 病院は受診していませんので、髄液検査と心理検査の結果は聞くことができないままとなっています。

6 現在の症状

平成 26 年 5 月頃、被害者連絡会で知り合った被害者の方から、ある整体の先生をご紹介いただき、それ以来、次の民間療法を受けています。

副腎を鍛える整体の施術（1 万円／回、2 週間に 1 回）

核酸と水素のサプリメント（3 万円／月）→その後ミドリムシ、ビタミン（1 万円／月）に変更

マコモ茶、麦芽等（1 万円／月）

デトックス効果のある水（5000 円／ボトル）

その効果があっただけで、平成 26 年 6 月頃より症状は軽くなっており、学校にも休まず朝から行くことができるようになってきました。朝も起きることができるようになってきました。

7 学校生活

(1) 通学

高校への通学手段は、自転車で4キロ、又はバスと電車でした。

しかし、症状が出てからは、通学の負担が大きく、私が車で送迎しています。

最近は調子がよいので、時々バスと電車に通学することもあります。

(2) 進級・進学

高校1年生の時は真ん中くらいの成績だったのですが、高校2年生(平成25年)の夏頃から記憶力低下等で成績が落ち、高校2年生の学年末考査で、進級判定にひっかかってしまいました。

平成26年1月から具合が悪く欠席も増えていたこと、記憶力が低下したことにより、1教科単位を取ることができなかったのです。

学年部長・担任には、高次脳機能障害の診断書を提出し、今の病状を考慮していただくようお願いし、平成26年の夏前に追認考査を受け、高3に進級できることとなりました。

将来は大学の看護学部へ行くつもりで、現在の高校を選んだのですが、成績が下がってしまったことで、美容方面へ進路の変更を考え、専門学校へAO入試の願書を出したところでした。

8 心情等

危険のないワクチンを受けられるものと信じており、国が勧めておいてこのような副作用が出るなんて、あってはならないことです。

現在、娘の症状は軽快してきていますが、今後症状が再び悪化しないとも限らないという不安はぬぐえません。

以 上

日時場所 平成26年7月19日聴取 於：被接種者自宅
担当者 野口啓暁、浮田麻里、大野聡子
対象者 〇-4番（本人、父、母）

1 被害者

平成9年12月生。接種時中学2年生（13歳）、現在16歳。兵庫県在住。

2 ワクチン接種前の健康状態等

健康。学校は3年に一度休む程度。アトピーあり（たまにひどい部分にステロイド剤を塗る程度）、アレルギー性鼻炎・結膜炎（通院不要）。

3 接種

サーバリックス 3回（H23.8、H23.8or9、H24.2）

4 経過概要

平成23年8月	自治体チラシと、友人たちの接種状況から接種を決め、1回目接種。
8月か9月	1回目の接種から2週間後に2回目接種。 2回目接種後、生理痛・頭痛がひどくなった。
2月	3回目接種。接種直後から手が痺れ、力が入らず字が書けない症状。
平成24年10月	強い頭痛・吐き気・倦怠感、時々学校を休む。
12月	集中力が出ない、記憶障害（友人の名前が出てこないなど）、頭が膜がかかった様な状態。
平成25年 夏	激しい頭痛、腹痛、関節痛、倦怠感、過眠、胸の詰まり感、呼吸困難、めまい、顎関節症、思考能力がほとんど停止の時期もあり。以降も症状継続。
9月	心療内科でジェイゾロフト、メイラックス処方（効果なく3ヶ月のみ）。
冬	特に吐き気の症状が強い。
平成26年 春	吐き気・倦怠感・生理痛・手足、腰、胸、背中痛み・イライラ感・不眠など。寝たきりの状態の時期も。

5 現在の状況・症状

頭痛は比較的治まるも、吐き気・倦怠感・生理痛・腕、腰、背中痛み・心臓の痛み・目の奥の痛み・不眠・イライラ感等現在まで継続。高2の1学期以降ほとんど欠席。

6 受診医療機関の数・診療科

13医療機関（内科や心療内科、カイロプラクティックも。名古屋や鎌倉の病院も）

7 所見・診断等

橋本病（の可能性）。副腎疲労、自己免疫性疾患（甲状腺）、頸性神経筋症候群。
名古屋の病院の検査では「脳症の可能性大」と言われた。

8 救済制度の申請

医薬品副作用被害救済制度：申請していない。申請相談で「できない」と言われた。

日時場所 平成26年7月12日聴取 於：被接種者自宅
担当者 木野達夫、矢吹遼子、西澤真介
対象者 〇-5番（本人、母）

1 被害者

平成11年11月生。接種時中学校1年生（12歳）、現在14歳。大阪府在住。

2 ワクチン接種前の健康状態等

アレルギー性鼻炎はあるものの、健康で、学校もほとんど休まず通学し、陸上部でも活動していた。

3 接種

サーバリックス 3回（H24.6.15、H24.7.13、H24.12.14）

4 経過概要

平成24年 月日不明	学校で子宮頸がん予防ワクチンの無料接種のお知らせが配布される。保健体育の教師が授業中にワクチンについて説明をした。
6月15日	サーバリックス（1回目）を接種。この後、関節痛を感じるが、陸上部に所属していたこともあり、以前から関節痛があったので、ワクチンの影響だとは考えなかった。
7月13日	サーバリックス（2回目）を接種。
7月下旬	関節痛が続き、自宅近くの整形外科に通院。集中力・落ち着き・気力などがなくなり、成績が急降下した。
12月14日	サーバリックス（3回目）を接種。
12月下旬	頭痛・腹痛がし始め、近くの病院の小児科に通院。

5 現在の状況・症状

最近は関節痛なども特になく、状態は安定している。

6 受診医療機関の数・診療科

2院。整形外科、小児科。

7 所見・診断等

特になし。

8 救済制度の申請

申請していない。

〇-5番 本人

1 はじめに

私は、堺市に住む、平成11年11月生まれで現在14歳の中学3年生です。子宮頸がん予防ワクチンを受けたのは平成24年、私が中学1年生のときでした。

私は、中学校に入ってから、生徒会活動を行い、陸上部に所属していました。学校を休むこともめったになく、心身ともに健康でした。

2 子宮頸がん予防ワクチンを接種した理由

中学1年生の1学期に、学校の先生が、「中学生のうちなら無料なので受けときや。」と言って、子宮頸がん予防ワクチンの接種を勧めるプリントを配りました。また、保健体育の授業でも、先生がプリントを示して、「受けときや。」と勧めてくれました。学校の友達との間でも、受けるかどうかお互いに聞き合っており、多くの友達が受けると言っていました。実際に受けたという友達も何人かいます。

私は、インフルエンザワクチン等も受けていたので、それらと同じで、「受けとかなあかんねや。」という程度の認識で、子宮頸がん予防ワクチンを受けることにしました。このワクチンの影響で身体に変調を来すことなど、全く予期していませんでした。

3 子宮頸がん予防ワクチンの接種とその影響

私は、平成24年6月15日に1回目、同年7月13日に2回目、同年12月14日に3回目の接種をしました。

受けたのは3回ともサーバリックスです。

ワクチン接種に際しては、お医者さんから説明文書のような用紙を「読んでおいてください。」と渡されたのみで、丁寧な説明を受けたことはありません。

副反応については、軽い副反応に関してはその紙に書いていたと思いますが、重篤な副反応については読んだ覚えがありません。子宮頸がんがなにかも、ワクチン接種を受けるまで、私は知りませんでした。

子宮頸がん予防ワクチンの接種は、大変痛みを伴うものでした。1回目と2回目で違う腕に接種をしたと覚えています。薬液が身体に入るときはとても痛かったですし、針自体もとても痛かったです。注射自体はすぐに終わるものでしたが、注射部位が腫れ、しこりができました。注射直後は腕が上がりませんでした。(ワクチン接種をした友達もみんな痛くて腕が上がらないと言っていました。)

注射を打ってから2~3日は痛みやかゆみが残りました。しこりも2~3日残りました。打った日はともしんどかったです。

1回目の接種の際が一番痛かったと覚えています。

4 ワクチン接種以降の症状

1回目の接種をした後、関節痛や筋肉痛がありました。ひざ、ひじ、かかと、腰、尾てい骨等体のあちこちが痛かったです。足首がつる感じがしたり、アキレス腱の両側の部分がピキピキッと痛くなったこともあります。特に、足については、歩きたくないくらいの痛さでした。体育大会のときは、あまりに痛くて、先生から湿布をもらいました。いろんな部位が痛くなったのですが、これら全てが一度に痛いのではなく、今日はひざ、

別の日はひじ、また別の日はかかと、というように痛みが移っていきました。

ですが、私は陸上部で活動をしていて、関節痛や筋肉痛になることはよくあったので、これらがワクチンの影響だとは思っていませんでした。

また、集中力や落ち着きがなくなり、なんとなく気力も出ず、疲れやすくなりました。そして、成績が落ちました。中学 1 年生の 1 学期には、クラスで 3 番の成績だったので、2 学期にはびっくりするくらい落ちて、先生や友達からも「どうしたん？」と心配されたりしました。ワーク（提出物）を期限までに提出することができず、ワークを提出しないとクラブ活動にも参加できないため、陸上部にも行けないことがよくありました。それでも、このときは何が原因でそうなっているのか分かりませんでした。

しかし、3 回目（平成 24 年 12 月 14 日）のワクチンを接種した後、明らかに頭痛が増えました。また、頭痛の他にも、腹痛や下痢の症状が約 1 ヶ月間、毎日のように続き、毎日非常にしんどい思いをしました。私はもともと頭痛や腹痛など滅多にありませんでしたので、さすがにおかしいなと思いました。さらに、不定期に動悸やマラソン後の症状のような身体のだるさが出てきて、母には、「胸が痛い」とよく言っていました。母は、私が前よりもよく寝ていると言っていました。

5 通院について

関節が痛かったときは、一度近くのクリニックの整形外科に通院しただけでしたが、上記のような症状になったので、私は、3 回目のワクチン接種の後、近くの大きな病院の小児科にかかりました。私は、子宮頸がん予防ワクチンにそのような副作用があるとは考えていませんでしたので、子宮頸がん予防ワクチンを接種したことを医師に告げず、医師から診察を受けました。腹部のエコーや腹部の CT、頭部の MRI を受けましたが、異常はないとのことで、医師からは、「疲れかも知れない。」等の診断を受けたのみです。私の症状も安定してきたので、2 回か 3 回通院したあとはもう行っていません。

6 さいごに

平成 25 年の夏ころでしょうか、母から、報道等で子宮頸がん予防ワクチンの副作用で全国の少女に色々な症状が出ているかもしれないという話を聞きました。

そこから、母は、被害者団体と連絡を取るなどして、子宮頸がんワクチン被害の情報を収集してくれました。そこから、上記のような症状は、子宮頸がん予防ワクチンが原因だと考えるようになりました。

母は、私に、「子宮頸がんは定期健診で予防できるのだから、娘にこのようなワクチンを打たせたことを後悔している。」「ほかのワクチンと同じく、『打つところか』程度の気持ちで子宮頸がん予防ワクチンを打たせたが、無知だった、余計なことだった、と後悔している。」と言ってくれます。

私自身は、陸上部に今も行っていて、中距離を走っていますが、「もう前みたいには走れない。」と思ってしまいます。また、今は、状態は安定していますが、しばらくしてから症状が出ることもあるとも聞いています。いつ症状が出るか分からないまま毎日過ごすのはとても不安です。

私たちの不安を消して欲しいです。

以上

日時場所 平成 26 年 7 月 13 日聴取 於:被接種者自宅
担当者 小山優子、國本依伸、笠原真央
対象者 〇-6 番 (母)

1 被害者

平成 6 年 4 月生。接種時高校 2 年生 (17 歳)、現在 19 歳。大阪府在住。

2 ワクチン接種前の健康状態等

運動が大好きで活発で学校も休まない、我慢強い子。生理も規則的にあり、問題はなかった。

3 接種

サーバリックス 1 回 (H23.8.24)

4 経過概要

平成 23 年頃 岸和田市から接種のお知らせを受け取った。母親は HPV ワクチンの接種に消極的であったが、本人は友達が受けているから、受けたいと希望した。

8 月 4 日 近所の A 診療所にてサーバリックス 1 回接種。接種時には発疹・腫れ・だるさはあったが、痛みはなかった。

9 月 接種から約 2 週間後から体調を崩し、体重が 52kg から 38kg までみるみるうちに減少した。

11 月 or12 月 接種から約 3 ヶ月後に生理が止まった。
以後、疲労・だるさや振るえ、頭痛 (船酔いのような感じと急激な痛みがある)、眼の奥が痛い、指の関節が腫れる、肋骨が痛い、お腹が痛い、皮膚が触っても痛い、血圧も上 70・下 40 位、白血球が低い (19.2)、血小板が低い (11.2)、アミラーゼが高い (16.5)。発熱。指と腰の関節痛。シャワーを浴びた際、水滴の当たる胸部付近にも痛みが生じる (「痛み」を感じる部位は移動する。)。むかつきのために食事ができない。通学のために自転車を利用していたが、坂道ものぼれなくなった。ぶるぶる震える。寒気みたいに感じる。
就職後、勤務先で過呼吸の症状を呈して倒れ、救急搬送された。

5 現在の状況・症状

高校の卒業後、本人は調理師免許が取得できる専門学校に通うことも考えていたが、当時は上記症状が継続していることを苦にし、進学をあきらめた。病院で事務員として勤務するようになったが、残業等が身体の負担となり、過呼吸になることがあり、退職した。現在は自宅付近の勤務先で事務員として働いている。

体調の悪さは整体に通院し、症状が軽減した。現在も整体には定期的に通院している。

生理が止まったため、経口ホルモン剤を服用したが、服用後に 38 度以上の高熱が出たため、現在は服用を停止。主食を玄米に変えたりと、食事療法や整体の通院により体調維持に努めているが、現在も胃のむかつきなどの症状が残っている。

6 受診医療機関の数・診療科

産婦人科 : 診療所 1 箇所、病院 4 箇所

救急科 : 病院 1 箇所

特に上記症状に対する診断は受けていない。生理が止まったため複数の婦人科を受診した。

7 所見・診断等

特に具体的な診断名はうけていない。

8 救済制度の申請

申請していない。

日時場所 平成26年10月3日聴取 於:法律事務所
担当者 西念京祐, 大西秀憲, 杉山佐枝子, 野澤佳弘
被聴取者 〇-10番 (本人・母)

1 被害者

平成9年12月生。接種時中学1～2年生(13歳)。現在16歳。大阪府在住。

2 ワクチン接種前の健康状態等

健康(インフルエンザ以外での欠席はゼロ, 家庭科部) 眼球振盪症

3 接種

サーバリックス 3回(H23.2.22、H23.3.24、H23.9.12)

4 経過概要

平成23年2月	学校のプリントにて認知し, 接種。接種部位に強い痛み(2～3日)
3月	接種2回目, 同上の強い痛み(2～3日)
9月	接種3回目, 気分が悪くなって横になった。
平成24年6月	目の奥が痛い, 二重に見える, まぶしい等の症状が発現→病院へ
7月	朝倒れる。不随意運動発生。病院へ入院, 検査。心因反応と診断。 漢方薬処方
9月	一時的に目が見えなくなり, 頭痛。病院へ。
平成25年	厚労省が発表した専門の大学病院に通院したところ, 検査も全くせず に, 「副作用はありえない」「やることはない」と言われた。
11月	遠方の大学病院にて入院,
平成26年9月	遠方の大学病院にて入院,

5 これまでに発症した主な症状

- ・ 目に関連する症状(目の奥が痛い, まぶしい, めまい→頭痛, 吐き), 不眠
- ・ 不随意運動, 力が入らない(特に左半身)
- ・ 筋肉痛 いずれも現在も継続

6 受診医療機関の数・診療科

かかりつけ医, 眼科×2, 病院, 大学病院, 遠方の大学病院, てんかん医療センター

7 現在の生活状況

志望高校には進学, 学校のサポートルーム(30分出れば出席扱い)を利用。2週間全くいけないときもある。欠席3分の1以上。午前中は学校にいけないことがほとんど。体育の授業中に不随意運動が出て倒れたため, その後, 参加を事実上禁止されている。

入学当初はマンドリン部に入部するも, 体調不良のため参加できず, 1年で退部

8 救済制度の申請

医薬品副作用被害救済制度: 申請予定(準備中)

日時場所 平成26年10月5日聴取 於:被接種者宅付近の喫茶店
担当者 小山優子、玉田欽也
対象者 〇-11番 (父、母)

1 被害者

平成 10 年 8 月生。接種時中学校 1 年生 (13 歳 1 ヶ月～13 歳 7 か月)。現在 16 才。

2 ワクチン接種前の健康状態等

健康 (ワクチン接種前の通学は一般的な病欠以外なし)。弓道部に所属。アレルギーなし。

3 ワクチンの接種状況

サーバリックス 3 回 (H23.9.3、H23.10.28、H24.3.27)

4 経過概要

平成 23 年一学期 学校から子宮頸がんワクチン接種の案内が配布。
9 月 3 日 近医にて 1 回目のワクチン接種 (接種部位左腕)
接種部位に強い痛み、腫れ、頭痛、微熱、腹痛
10 月 28 日 同医院にて 2 回目のワクチン接種 (接種部位左腕)
接種部位に強い痛み、腕の腫れ、頭痛、微熱、腹痛、強い体のだるさ。
平成 24 年 3 月 27 日 同じ医院にて 3 回目のワクチン接種 (痛みのため接種部位は右腕)
腕の痛み、腫れ、頭痛、微熱、腕が上がらない、強い体のだるさ
4 月 手足の震えや痺れが発生。生理不順、リンパの腫れ。
近医を受診するも原因不明。足のもつれ。右半身の痺れ。関節の痛み。
味覚がなくなる。計算障害など症状が重くなる。
平成 25 年 6 月 A 病院で診察。MRI 検査。各科で診察するも原因不明。
12 月 B 医療センターで MRI 検査及び神経の検査も異常なしと診断。
平成 26 年 1 月 C 大学附属病院で診察を受ける。ワクチンの副作用の疑いありと診断。
2 月 C 大学附属病院に検査入院。結果、ヒステリーや自立神経の問題と診断。
てんかんの薬・漢方薬を処方される。薬が合わず、あまり服用せず。
3 月 D 病院、E 病院診察、結果、「繊維筋痛症」と診断。
3 月 全身の不随運動におそわれ、A 病院を受診する。F 大学病院に紹介。
4 月 F 大学病院神経内科を受診。
同病院で子宮頸がんワクチンとの因果関係ありと診断。メチコバールの
処方を受け、徐々に症状回復。
8 月 身体状態がかなり改善され、通常生活を送れるほどに回復。但し、易疲
労、微熱が出やすい、等の症状は残存。
9 月・10 月 手のしびれ、微熱がぶりかえし。通学は継続。

5 現在の状況・症状

メチコバールの処方により症状が改善。ぶり返しはあるが、日常生活が来ている。

6 受診医療機関の数・診療科

11 医療機関。神経外科、小児脳神経外科、薬物療法・神経内科、整形外科、内科、麻酔科

7 所見・診断等

子宮頸がん予防ワクチン副作用疑い (全身倦怠感・右上下肢痛)、自律神経失調、繊維筋痛症

8 救済制度の申請

申請していない。(申請できないと言われた)

0-11 番 本人

1 はじめに

私は平成 10 年 8 月生まれで、中学 1 年生の 9 月に初めて子宮頸がんワクチンを打ちました。

このワクチンを打つ前は、私は小学校でも中学校でも、学校を休むことはほとんどなく、中学 1 年生の春からは弓道部に入部して、平日も休日も弓道の練習を続けていました。弓道では初めて出場した県大会でも良い成績をおさめ、当時は顧問の先生から私の頑張りを認めてもらっていました。

その他にも、ドラムやピアノ、習字などの習い事をしており、中学 1 年生のときには、学校行事であった合唱コンクールでピアノ演奏と指揮をしました。

このように私は積極的にいろいろな活動をしていたのですが、一番好きなことは演劇でした。市内の劇団に入団して、練習に参加しましたし、何度か東京までオーディションを受けに行ったこともありました。

当時の私は 13 才で、まだ将来のことをはっきりと決めていたわけではありませんでしたが、健康な身体さえあれば、頑張っているいろいろなことにチャレンジして、何にだってなれるんだと思っていました。

2 ワクチンを受けることになった理由

中学 1 年生（平成 23 年）の秋に、学校で子宮頸がんワクチンに関する手紙を配られました。学校では、子宮頸がんがどんな病気かということや、このワクチンを何故打つ必要があるのか、という説明はありませんでした。

けれども、私も周りの女子の友達もみんな、学校で配るワクチンの手紙だから、全員が受けなければならないと思っていました。

3 ワクチンを打たれたときの状態

(1) 1 回目

平成 23 年 9 月 3 日、私はお母さんに付き添われて、近所のかかりつけの医院で 1 回目の注射を受けました。

注射を打つ前に、お医者さんや看護婦さんからはこのワクチンがどんなワクチンかという説明は何もなく、ただ注射を打たれただけでした。

私は、これだけは声を大にして伝えたいのですが、注射を打たれることも、点滴を打たれることも、決して好きではありませんが、全く怖くないし、恐怖感もないです。今までも、小さい頃からも、予防接種や注射を打たれたことは何度もありますが、その後で体調がおかしくなったことは一度もありません。

けれども、この子宮頸がんワクチンを打った後は、今までに感じたことのない、腕に強い電気が走るような痛みが起きたことをはっきりと覚えています。

そして、ワクチンを打たれた後はすぐに気分が悪くなり、吐き気と頭痛がつらくて、家に帰ってからもずっと横になって休まないといわれませんでした。

1 回目の注射の後、少なくとも 1 週間は打った腕が痛み、腫れが続きました。また、

頭痛や微熱、腹痛が続きました。

そのうち、徐々にこれらの症状は治まったのですが、それでも手足がだるくて疲れやすく、朝に起きるのがつらくなりました。なんとか、学校に行っても授業を受けるのがしんどくて、先生の言葉に集中できませんでした。

(2) 2回目

2回目のワクチンは平成23年10月28日に打ちました。私は1回目のワクチンの後があまりにもつらかったので、お母さんにもうこのワクチンは打ちたくない、と言いました。けれども、お母さんは私に、このワクチンは3回打たないと効果が出ないし、今やめてしまったら最初にしんどい思いをしたことが無駄になってしまう、と言いました。私は、我慢しないと仕方がないと思って、2回目のワクチンを打ってもらいました。

2回目の後もやはり、1回目のときと同じように、電気が走るような強い痛みがあり、ワクチンを打った後はすぐに気分が悪くなり、吐き気や頭痛ができて、家に帰るとすぐに横になって休みました。

そして、注射を打った腕の痛みや腫れが続き、頭痛、微熱、腹痛が続き、1回目よりも強い身体のだるさを感じました。この腕の痛みや腫れは1、2週間程度続き、徐々に治まりました。

しかし、手足や身体のだるさが完全に無くなることはなく、しんどさをずっと感じるようになりました。

(3) 3回目

3回目のワクチンは平成24年3月27日に受けました。お母さんは、4月までにワクチンを受けないと有料になってしまうと言い、私もこれまで2回もしんどい思いを我慢したのだから、あと1回なんとか我慢しようと頑張って受けたのです。

3回目のワクチンの後の症状はこれまで以上にひどくなりました。

ワクチンを打った後、同じ強い痛み、吐き気、頭痛がして、腕が腫れ、今度は腕があがらなくなってしまいました。この状態は約1ヶ月ほど続きました。

そして、腕が上がるようになってからも、身体の強いだるさが消えることはなく、朝、学校に行くのもつらく、学校に行っても授業に集中できませんでした。大好きだった弓道部の練習も参加できなくなりました。学校から帰るととにかく身体を横にしないといられず、食事のとき以外はずっと部屋でベッドに横になっていました。

私は、ワクチンを打った後で自分の身体がこんな風にしんどくなってしまったのは、ワクチンが原因ではないか、と思う気持ちもありました。けれども、ワクチンを打ったらこんなに身体がおかしくなる、という話は誰からも聞いたことはなかったので、私の方がおかしいのかとも考えました。

身体がこんな状態だったので、学校の成績は急に下がり、弓道部の練習にも参加できず、休むようになりました。弓道の顧問の先生からは、私がやる気をなくしていると思われ、叱られました。

また、お父さんからも、ベッドでだらだら生活しているから成績がさがったのではないか、もっとやる気をださないと、などと言われたりして、身体のしんどさを分かってもらえませんでした。このように誰にも分かってもらえないことは、とてもつら

かったです。

3 回目のワクチンの後に感じた身体の異常は、平成 24 年 4 月から平成 25 年 6 月頃にかけて、だんだんと様々な多くの症状が生じるようになり、その程度も強くなっていきました。

具体的には、強い身体のだるさ、腕のしびれ、右半身のしびれ、関節の痛み、足が上がらない、目の奥を手でかき回されるような感覚、物がぼやけて見える、味覚がわからない、突然手がブルブルとふるえ出す、起きあがれない、計算ができない、手に力が入らなくて、片手で鉛筆が支えられない、などがああり、数えたらきりがありませんでした。

私がこのような状態になって、ようやく両親も私の身体がおかしくなっていることを分かってくれました。

3 学校生活

1 回目、2 回目のワクチンを打った後も体調が悪くなっていましたが、早退したり、保健室を利用したりして、学校には何とか通っていました。部活動にもなんとか参加しましたが、思うような練習はできませんでした。

ところが、3 回目のワクチンを打った後は、学校に行くために起きあがれない日が増え、とにかく強い痺れと身体のだるさ、関節の痛みで何もできなくなりました。

当然、欠席や遅刻が増えました。1 回目、2 回目のワクチンの後は何とか続けていた弓道部の練習も参加できなくなりました。平成 24 年 6 月、私はやむなく弓道を続けることを諦め、退部しました。

中学 3 年生の春には、物がぼやけて見えるようになり、学校の視力検査で右目の視力は測定不能と言われました。

吐き気や微熱、目の奥をかきまわされるような頭痛も現れるようになり、ワクチンを打つ前は 1 ヶ月に 1 回、正確だった生理も、1 ヶ月に 2 回あたりと、生理不順になりました。

階段を一人であがろうとしても足がうまくあがらず、友達に助けをもらうこともありました。

この頃には、学校にはほとんどお母さんの車で送ってもらっていましたが、このようにつらさを我慢して、学校に着いてもとても教室で机に座ることができず、保健室で 1 日寝て過ごし、早退していました。弓道部の顧問の先生や担任の先生などからは、私がさぼっている、わがままだと言われていました。

結局、中学 3 年生（平成 25 年）春以降、学校の授業にはほとんど参加できませんでした。そして、この頃から、右の手のひらが突然自分の意志とは関係なく震えだし、止められなくなる症状が現れました。最初の頃は少し我慢しているとやがて手の震えはおさまりました。

やがて、鉛筆を持っても指に力が入らず、文字をこれまでのように、バランス良くきちんとかけなくなっていきました。学校の階段も足があがらずのぼれなくなりました。

4 病院での対応

私の両親は共働きで、心配をかけなくなかったので、3回目のワクチンを打った後、中学2年生の約1年間、学校での身体のしんどさをあまり両親には話していませんでした。

けれども、中学3年生になった後の平成25年6月頃には、もう自分一人では我慢できなくなりました。私はお母さんに、病院に連れて行って欲しいと頼みました。

最初は近くのA医院に行きましたが、私の症状を先生に話しても、検査の結果は特に異常はなく、私の状態を理解してもらえませんでした。

次に少し離れた公立のB病院を紹介してもらい、その病院では脳神経外科、眼科、婦人科、小児科などにかかり、脳のMRIなどあらゆる検査をしてもらいました。しかし、やはり検査結果に異常はなく、原因は不明でした。病院では、私が身体のだるさ、手の震え、足があがらないことなどを訴えても、気分を変えたら治るのではないかと終わりました。

身体のだるさや頭痛、吐き気などが毎日続き、両親に手や背中をさすってもらいました。それでもどうにも我慢できなくなると、その都度病院に連れて行ってもらいましたが、結局、病院では原因がわからないと、治療は何もしてもらえませんでした。

平成25年12月頃、C医療センターを受診し、そこで子宮頸がんワクチンの副作用についての話を聞きました。同じ頃、お父さんも、子宮頸がんワクチンの後で手足がぶるぶると震えたり、歩けなくなっている少女のニュースを見ました。そしてお父さんがインターネットで調べた結果、私のこれまでの症状も子宮頸がんワクチン後の副反応と一致するということがわかりました。

そして、C医療センターで、子宮頸がんワクチン後に痛みなどの症状が出たときに受け入れる医療機関として、D大学附属病院の紹介を受けました。

平成26年1月に私はD大学附属病院を受診しました。

両親も私も、これまではどの病院に行っても検査に異常がないから、私の方がおかしい、という対応でした。しかし、D大学附属病院は子宮頸がんワクチン後の症状を診てくれるところなので、初めて、きちんと対応してもらえる、話をきいてもらえる、検査をして原因をつきとめてもらえる、と大きな期待と希望を持ちました。

平成26年1月終わりから2月にかけて、私はD大学附属病院に検査入院しました。私の担当になった女性医師からは、もうじき高校受験なのに、受験が嫌だから入院したいのか、あなたはわがままですね、親子関係に問題があるからこういう症状が出ています、ヒステリーです、などと言われました。結局、私の症状は自律神経失調症で、心因性の問題ということになりました。D大学附属病院ではてんかんの薬や漢方薬など多くの薬を処方されたのですが、とても飲める量ではありませんでした。

D大学附属病院で唯一良かったのは、診断書に「子宮頸癌予防ワクチン副作用疑い(全身倦怠感、右上下肢痛)」と書いてもらったことでした。

というのは、この診断書を中学校に提出してから、学校の先生達がようやく私が仮病を使ってさぼっていたわけではなく、本当に身体がつかれたことを理解してくれるようになったからです。

そして、以後は私の体調に学校側も配慮してくれるようになり、高校入試に際しても、私の体調に合わせて別室で受験することが出来ました。

5 E大学病院での治療

D大学附属病院では、私の症状は自律神経失調症という扱いでしたので、私のだるさも、身体の痛みも全く改善しませんでした。

私はこれまでと同じように身体がつかなくなると、近くのB病院に連れて行ってもらいました。

平成26年2月20日頃、私は自宅で身体全体がぶるぶると震えだし、自分では止められなくなりました。おばあちゃんが私をB病院に連れて行きました。

待合室で診察を待つ間も私は自分を止めることができなくなり、待合室を歩き回ったり、横になったり、震えたり、とじっとしていることが出来ませんでした。

結局、この日は自分の身体を抑えられなくなる状態が2時間くらい続いた後で、治まりました。

B病院でも私が何故このような状態になるのか分からないため、治療が出来ず、私の発作が治まるまで、ただ様子を観察するだけでした。

しかし、このときE大学病院の先生がこの病院に来ており、私の状態を見て、E大学病院を受診するように勧めてくれました。

平成26年3月末に、私はE大学病院の神経内科を受診しました。そこで、私は初めて、私の症状は子宮頸がんワクチンが原因であると、はっきり医師に認めてもらえました。そして、メチコパールの処方を受けました。

私は平成23年9月に子宮頸がんワクチンを打たれてから、このとき初めて、症状の原因に応じた治療を受けることが出来ました。

E大学病院で処方された薬を飲むうちに私の症状はどんどん改善されました。

平成25年春以後、平成26年5月頃まで、私は小学校低学年の計算問題も解くことができなくなっており、身体のだるさ、頭痛、右半身の痛みやしびれに一日中ずっと悩まされていました。また、味覚もおかしくなっていて、何を食べてもほとんど味が分かりませんでした。

しかし、平成26年夏頃からは本当に身体が楽になりました。

身体やしびれや痛みもほぼなくなり、味覚も回復しました。生理不順も治りました。

それまでは、頭の中に霞がかかっているようで、ものも覚えられなかったのが、世界がこんなにはっきり、理解できるのか、と感じられるようになったのです。

6 症状のぶり返し

E大学病院の治療後、私の症状は随分よくなり、現在は調子がよければほぼ普通に生活出来るようになりました。

しかし、子宮頸がんワクチンを打つ前と比べれば、身体が疲れやすく、頻繁に熱を出すようになり、体調も崩しやすくなりました。

平成26年9月頃、突然、右手が以前のように痺れる症状のぶり返しがありました。

平成26年10月のつい先週にも、再び右手がだるくなり、微熱が出ました。実はこの症状は今もまだ治まっていません。

昨年の中頃と比べれば、本当に私の身体は楽になりました。しかし、実際に今でも、

症状がこうしてぶり返しているの、いつまた元のような重い状態になるかと思うと不安です。

そして、将来、自分はちゃんと妊娠できるのか、これが一番心配です。

7 あきらめたこと

中学校に入学してから私は弓道を始めました。

私はこの弓道という競技が本当に好きで、入部してから、今回のワクチンで体調を崩すまでは休まずに練習に参加し、一生懸命頑張ってきました。

実際、子宮頸がんワクチンを1回目、2回目と打った後でも、身体はつらかったのですが、どうしても上達したくて弓道の練習を続けました。

平成24年1月に初めての県大会に参加し、私は良い成績をおさめました。

1年生でこのように良い成績をおさめられたのだから、これからもっともっと練習して頑張りたい、弓道を続けたいと強く思いました。

しかし、平成24年3月末に3回目のワクチンを打った後、私の身体は弓道を続けるどころではなくなり、平成25年の中学3年生の春以降、学校に通学するのもやっと、やがて学校に通うこともままならなくなりました。

平成25年6月、私は弓道を諦めました。

もし、ワクチンの副作用がなければ、弓道を続けていたはずですが。こんな形で自分の目標を諦めることになったのは、悔しいです。

8 さいごに

私は、子宮頸がんワクチンを打った後に出た、私の症状が何だったのかをはっきりさせたい、

「気のせい」「痛みからのショック」など意味の分からない結果で終わらせてほしくない、

と強く思っています。

今、私の症状は落ち着いています。

ニュースなどで重度の副反応が出ている子を見ると、本当にこのワクチンを推進した一部の大人達を許すことができません。苦しんでいる人達を救おうとしない、真実を隠そうとする体質のこの国が一番残念です。

一日も早く、苦しんでいる人を、辛く哀しい日々を過ごしている人達を、早く暗いトンネルから抜け出させてあげてください。

私も両親も何かしてもらいたいとか、思っていません。

ただ、真実を世間の人たちに伝えてもらいたい。子宮頸がんワクチン接種後に副反応で苦しんで人生が変わった人が沢山いることを、少しでも多くの人達に分かってもらいたい。

そして、今後接種を完全に中止してもらいたい。ただそれだけを祈ります。

以 上

HPVワクチン（子宮頸がんワクチン） 副反応被害報告集—大阪支部版—

2014年10月18日発行（初版）

発行元 薬害対策弁護士連絡会 HPV研究会大阪支部

連絡先 薬害対策弁護士連絡会 HPV研究会大阪支部 事務局

〒530-0047

大阪市北区西天満4丁目11番22号 阪神神明ビルディング9階

梅田新道法律事務所内（弁護士 松井俊輔）

TEL 06（6316）8824